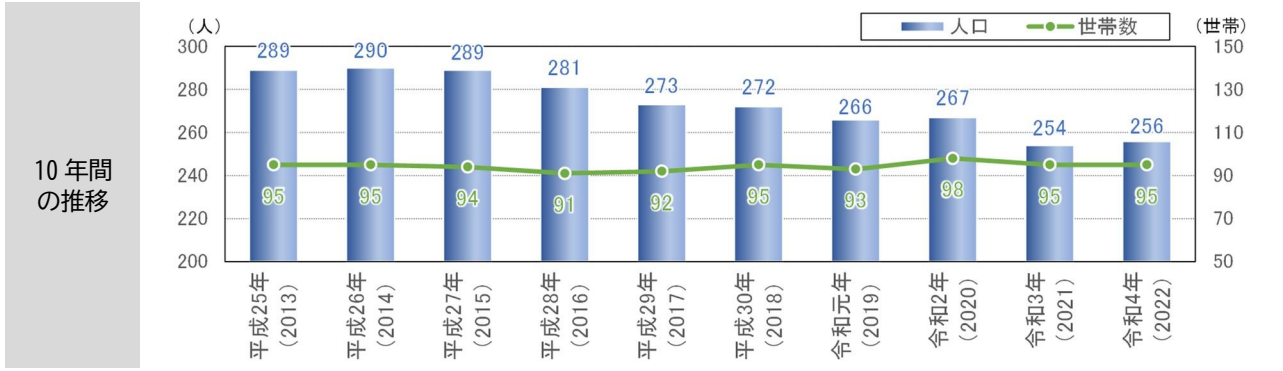
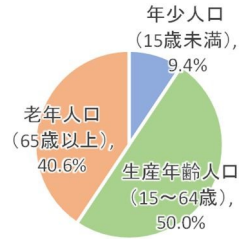


	世帯数	人口	年齢別人口	
現在	95 世帯	256 人	15歳未満 (年少人口)	24 人
			15~64歳 (生産年齢人口)	128 人
			65歳以上 (老年人口)	104 人
約50年前	91 世帯	444 人		



歴史等

大貫の地名の由来は不明ですが、古くから播州はもちろん、但馬方面の人々のお伊勢参り街道として栄え、東西に大きく貫く街道で、南は瀬戸内海まで一望できる土地から大貫と地名が付けられたとも言われています。かつては、街道沿いに茶屋、めし屋、宿屋も点在し、道しるべの碑も数多くありました。

古代律令制では播磨国神前郡川辺里、中世は田原荘に含まれたと考えられます。元禄年間(1688~1704)の『元禄郷帳』に「古ハ大貫村、東大貫村」とあるように、元禄年間以前に、大貫村が東大貫村・西大貫村・南大貫村に分村して成立しました。大貫村は、近世は豊臣氏の領地となった後、慶長5年(1600)からは姫路藩領となりました。水田の用水は池掛りが多く、水不足に悩まされた地区でした。明治11年(1878)に大貫村の一部となりました。

交通の至便性を背景に、平成9年(1997)には福崎東部工業団地が造成されました。



天満神社



道標 (東大貫路傍)



地藏菩薩立像・安政3年造立 (東大貫路傍)



秋祭り・屋台



新道開通記念碑



不動明王立像・役行者坐像 (早戸池西)

※現在の人口・世帯数・年齢別人口は令和4年5月末時点、10年間の人口・世帯数の推移は各年5月末時点、約50年前の人口・世帯数は昭和52年6月末時点であり、いずれも住民基本台帳による値です。なお、年齢別人口のみ外国人を含む値になっています。

歴史文化遺産一覧

分類	名称		年代	概要	歴史文化ものがたり					
					①	②	③	④	⑤	⑥
建造物 石造物	1	地藏菩薩立像(東大貫路傍)	宝暦9年(1759)	地藏菩薩の石仏。台座正面には造立年月日とともに「施主念仏講」と記されている。				●		
	2	地藏菩薩立像(東大貫路傍)	安政3年(1856)	地藏菩薩の石仏。正面には像容・造立年月日とともに「供養塔」と記されている。				●		
	3	地藏菩薩立像(東大貫路傍)	明治33年(1900)	地藏菩薩の石仏。正面に像容と造立年月日が記されている。				●		
	4	不動明王立像(早戸池西)	不明	不動明王の石仏。				●		
	5	役行者坐像(早戸池西)	不明	役行者の石像。2体のうちの1体。				●		
	6	役行者坐像(早戸池西)	不明	役行者の石像。2体のうちの1体。				●		
	7	廻国塔(東大貫墓地)	文化13年(1816)	正面には願主・行者の名等とともに梵字と「奉納大乘妙典六十六部日本廻国」、右に世話人、左に造立年月日が記されている。				●		
	8	大峰講供養塔(早戸池西)	安永9年(1780)	正面には梵字と「南無行者大菩薩」の文字が記されている。登山回数三十三回を記念する供養塔である。				●		
	9	石鳥居(天満神社)	弘化4年(1847)	石鳥居。右柱正面には「奉献 御宝前」、左柱正面には造立年月日と願主が記されている。				●		
	10	石灯籠(天満神社)	天明4年(1784)	左右一対の石灯籠。左右とも正面には「御神灯」、側面に願主等、背面に造立年月日等が記されている。				●		
	11	石灯籠(早戸池西)	文化9年(1812)	石灯籠。正面には「大峯山上講中」、右に造立年月日、左に「当村」と記されている。				●		
	12	石灯籠(天満神社)	明治4年(1871)	左右一対の石灯籠。左右ともに正面に「御神灯」、背面に造立(再建)年月日が記され、基礎の正面に「氏子中」と記されている。				●		
	13	石灯籠(天満神社)	明治28年(1895)	左右一対の石灯籠。左右ともに正面に「献灯」、背面に造立年月日が記され、基礎の正面に「氏子」、側面に建納者が記されている。				●		
	14	石灯籠(天満神社)	明治33年(1900)	左右一対の石灯籠。左右ともに正面に「献灯」、背面に造立年月が記され、台石の背面に建納者が記されている。				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭り信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
建造物 石造物	15	手水石（天満神社）	天明4年（1784）	手水石。正面に「漱盤」、背面に造立年月日・願主が記されている。				●		
	16	狛犬（天満神社）	天保10年（1839）	石造狛犬。				●		
	17	新道開通記念碑（東大貫路傍）	大正11年（1922）	新道の開通を記念して建てられた石碑。正面には「記念」の文字とともに由来等が記されている。		●			●	
	18	参拝道・石灯籠・玉垣等建設記念碑（天満神社）	明治28年（1895）	参拝道・石灯籠・玉垣等の建設を記念して建てられた石碑。				●		
	19	玉垣建設記念碑（天満神社）	明治42年（1909）	玉垣の建設を記念して建てられた石碑。				●		
	20	石段標（天満神社）	明治30年（1897）	左右一対の石段標。右柱正面に「氏子中」、背面に願主、左柱正面に造立年月日、背面に周施人が記されている。				●		
	21	道標（東大貫路傍）	不明	道標。正面には地藏立像の像容とともに「右 日光寺 左 大善寺」と記されている。				●	●	
	22	道標（東大貫路傍）	不明	道標。正面には「日光寺道」と記されている。かつては県道23号線と林道笠形線の交差点に位置したが、道路改修に伴い、北の日光寺道と林道笠形線の分岐箇所に移設。				●	●	
	23	寺子屋師匠墓碑（東大貫墓地）	嘉永5年（1852）	寺子屋師匠の墓碑。正面には梵字と「知足院常如有感居士」の文字が記されている。	●			●		
	24	今若徳治郎墓（東大貫墓地）	天保10年（1839）	墓碑。正面には「今若徳治郎墓」と記されている。				●		
	25	勇山弥平之墓（東大貫墓地）	明治5年（1872）	墓碑。正面には「勇山弥平之墓」と記されている。				●		
	26	今若弥七之墓	明治25年（1892）	墓碑。正面には「今若弥七之墓」と記されている。				●		
美術工芸品 絵画	27	武者絵図（天満神社）	安政2年（1855）	画家は「文洲」、奉納者は「鎌谷忠右衛門」とある。122×173 cm。	●			●		
	28	書跡・典籍・古文書・歴史資料	東大貫区有文書	24件（点数不明）。		●				

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
有形の民俗文化財	祭具	29	屋台（東大貫区）	—	布団屋根型屋台。太鼓は鏡が2尺6寸あり、その響きは10km先までも届くと言われている。屋根の布団地はサテンでエンジ色。天幕は白地で随所に当天満神社の梅鉢の紋を入れている。その昔、姫路で行われた展示会で、高い評価を得たもの。					
		無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	30	秋祭り（大貫）	—	大貫の屋台3台（いずれも布団屋根型）が大年神社に集まる。宵宮では、屋台が町内を巡行し、本宮では南大貫区・東大貫区・西大貫区の順に3台の屋台が大年神社に宮入りする。			
31	七夕祭			—	8月7日に公民館で行われる。					
遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡等	32	カスベ口遺跡	中世	消滅。福崎東部工業団地の造成に伴う確認調査を実施し、少量の遺物は見られたものの遺構等を確認するには至らなかった。					
		33	飛原口遺跡	中世	消滅。福崎東部工業団地の造成に伴う確認調査を実施し、少量の遺物は見られたものの遺構等を確認するには至らなかった。					
	街道・古道等	34	北条街道	—	三木から宍粟に通じる因幡街道の道筋上にあたる東西の主要街道。絵図や柳田國男の『故郷七十年』などから当時の様子を知ることができる。					
		35	石の道（大貫ルート）	古墳時代	山崎断層帯が通る部分で、地形的に低くなっているため、6世紀後半から7世紀前半頃に加西から石棺材を運ぶのに使われたと考えられる道筋。					
動物・植物・地質鉱物	植物	36	天満神社の森	—	天満神社の社叢。 【町指定保存樹】					
文化的景観	生活・生業・風土により形成された景観地	37	鴻池	—	堤高5.7m、堤延長190m、貯水量63,300m ³ のため池。受益面積（単独）は8.2ha。					
その他	信仰の場	38	天満神社	—	学問の神様・菅原道真を祀る東大貫区の氏神。					

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りや信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

東大貫

歴史文化遺産の保存・活用の取組等

- ・東大貫まつり保存会を組織し、郷土芸能の後継者を育成し、地域のまつりを継承しています。
- ・令和3年（2021）に公民館に保存されていた古文書整理を区役員により実施しました。



古文書整理